

囲碁 なるほど 将棋

次回は 5 月 13 日 掲載 予定

おたさわかんじ
大澤完治さん ④

岡目八目



これまで会社の囲碁部、
大学OB会、小学校など多
くの囲碁の現場に関わって
きましたが、現状の囲碁界
に大変な危機感を抱いてい
ます。そこで囲碁の普及推
進に向けた、私なりの提案

をしたいと思えます。
まず訴えたいのは、囲碁
を学校教育の正課にするこ
とです。

この課題は、日本棋院な
ど囲碁関係者が取り組んで
きた囲碁界の悲願です。数
年前に「全日本囲碁協会」
(菊池康郎理事長)が11万
人分の署名を集めて文部科
学省に提出しましたが、夢
はかないませんでした。私
自身を含め、囲碁界の不甲
斐なさと力不足を実感しま
した。
今や200万人を切った
ともいわれる囲碁人口の7

囲碁 学校教育の正課に

8割は70歳に
近い世代とみら
れます。昨今の囲碁界の停
滞ぶりと、この人口構成を
考えると、時間的猶予は残
されていません。
昔、中国では君子(教養
人)の必須科目として「琴
(音楽)、棋(囲碁)、書
(書道)、画(絵画)」の
四つがありました。現在、
日本ではなぜか棋(囲碁)
だけが小中学校の正課にな
っていません。

「良いものは良い」とはっ
きり主張し、正課にするべ
きです。正課になれば、全国
の生徒・児童に
囲碁の素晴らし
さを知ってもらえるさ
になります。
囲碁普及には「ミッシ
ン(使命感)」、「パッシ
ョン(情熱)」、「ハイテン
ション(心意気)」の心が必要
です。囲碁愛好者の多くは、
自分たちだけで楽しむ傾向
が強く、さらなる普及への
心に欠けているようです。
今こそ囲碁界は「心」を
一つにして、普及活動に奮
起しなければなりません。
(緑星さいたま代表)
(おわり)